

# 公安特捜班・指名手配犯捜査指令

新庄雄太郎

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

公安特捜班シリーズ・特別編第3弾

特捜班が指名手配犯の捜査をまとめた話を特別編の第3弾に登場

目次

第1章 強姦事件（熱海）

1

## 第1章 強姦事件（熱海）

年々多様化する鉄道犯罪捜査は、私服鉄道公安隊が取り組みます。スリ、強盗、暴力、痴漢、あるいは列車で逃げようとするもの、それが我々の仕事だ。

この日、公安特捜班の捜査主任南 達仁は高山と水野と小海とともに、事件の捜査をしていた。

6月17日 東京中央鉄道公安室・公安特捜班

「この男ですか。」

「そうだ、名前はこの男だ。」

「桑田涼介、35歳。」

「この人は確か。」

「ああ、今、茨城県警から手配中の男だ。」

「えーと、先月の27日に若い女性を狙い、わいせつ行為や拉致と殺人未遂し逃走したと思われる。」

「若い女性ばかり狙うなんて。」

「どこから狙うと思う、高山君は。」

と、小海は言う。

「主任、恐らく犯人は遠くへは言っていないはずだから、狙うとしたら。」

「という事は、あそこか。」

「ええ、間違いないと思います。」

そして、4人は各公安室にも協力し、犯人逮捕に当たった。

「小海さん、あのんだ。」

「えっ、似てるわ。」

高山と小海は手配中の男を発見した。

「主任、こちら高山手配中の男らしき人物を発見、これにより尾行します。」

と、高山は無線で南主任と連絡した。

「よし、そのまま尾行しろ。」

「了解。」

高山と小海は東京駅で特急「スーパービュー踊り子」に乗り、張り込むことに。

「あの男、何をやらかすのか。」

「女性が狙うのでしょうか。」

「様子を見よう。」

「ええ。」

南主任と水野は東京駅付近で捜査をしていると、高山と小海が「スーパービュー踊り子」に乗るところを見た。

「犯人は、この踊り子に乗りました。」

「恐らく犯人は熱海へ逃走します。」

「よし、私と水野もそっちへ行く。」

「わかりました。」

と、高山と小海は尾行を続けた。

「おっ、熱海で下車するぞ。」

「その場で確保ね。」

「ああ。」

そして、高山と小海は男を尾行していると、手配犯は女性に近づいた。

「見つけたぞ。」

と、手配犯は驚き逃走した。

「や、やべえ。」

「待ちなさい。」

と、高山と小海は後を追った。

そこへ、先回りしていた南と水野が手配犯に追いついた。

「鉄道公安だ、観念しろ。」

「ちくしょー。」

と、南は手配犯を一本で決めた。

「おとなしくしろ。」

と、高山は手配犯に手錠をかけた。

「く、くくく、くそーっ!。」

「桑田 涼介、殺人未遂と強制わいせつの容疑でお前を逮捕する!。」  
しばらくして、桑田を東京公安室に連行した。

「班長、桑田を連行しました。」

と、高山は言った。

「そうか、ご苦労さん、よし、取り調べは岩泉と菅原に任せよう。」  
「お願いします。」

3日後、桑田は茨城県警に引き渡した。